

みんなの思いを力に、 全国学童保育研究集会をこれからも

全国学童保育連絡協議会 会長 西田隆良



2020年は、「新型コロナウイルス感染症」の拡大にともない、3月から全国一斉の学校「臨時休業」がはじまりました。同年4月には「緊急事態宣言」が出されて移動などの自粛が要請され、社会生活に大きな影響をおよぼしました。地域によっては、分散登校も含め、4か月もの間、一日保育がつづいた学童保育もあります。

毎年、多くの学童保育関係者が集う「全国学童保育研究集会」(以下、全国研)においても開催は困難と判断し、全国学童保育連絡協議会・役員会として、山形で2020年10月10日・11日に開催を予定していた「第55回全国学童保育研究集会」は中止としました。

開催に向け、数年前から準備をされてきた山形県学童保育連絡協議会の皆様のご尽力に、心より感謝申し上げます。また、元気な笑顔で仲間と会えることを楽しみにしていた全国各地の学童保育関係者の皆様が集う「全国研」を開催できなかったこと、心苦しく思っております。

「学童保育をよりよいものにしたい」「ほかの地域では、どのように学童保育を行っているのだろう」「行政の施策にしっかりと学童保育を位置づけたい」など、保護者や指導員の切なる思いからはじまった「全国研」。そこに集った思いや願いは、全国各地の学童保育の向上を求める運動として発展し、国の制度化(法制化)を生み出す力となり、各地の研究集会や研修の取り組みを活性化させるなど、学童保育運動を推進する力の源となってきました。

「全国研」のこれまでの歩みをふり返り、みんなで培ってきた財産を、よりよい学童保育を生み出す力につなげていきましょう。